



TITLE:

京大広報 No. 408

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 408. 京大広報 1991, 408: 77-86

ISSUE DATE:

1991-04-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209262>

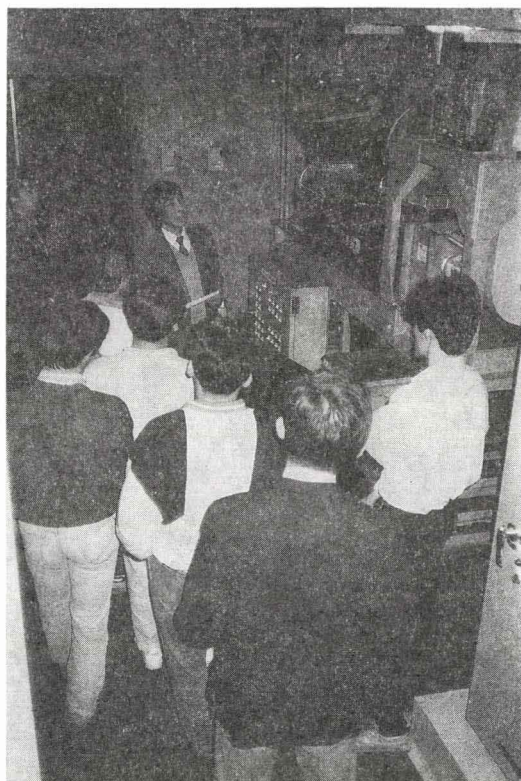
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 408

京都大学広報委員会



有機廃液処理装置（KYS）（左写真）と無機廃液処理の実習風景 一関連記事本文83ページー

## 目 次

### <大学の動き>

名誉教授称号授与式	78
医療技術短期大学部名誉教授称号授与式	79
平成3年度医療技術短期大学部入学式	79
平成3年度学部入学式	79
平成3年度大学院入学式	80
京都大学春秋講義<春季講座>の開催	81
学術出版会が出版を開始	82
部局長の交替等	82

### <紹介>

環境保全センター	83
討 報	84

### <随想>

「月曜会」のことなど 名誉教授 田中 春高	85
-----------------------	----

### <コラム>

遠いものとの距離 理学部教授 佐藤 文隆	86
日 誌	86

## ＜大学の動き＞

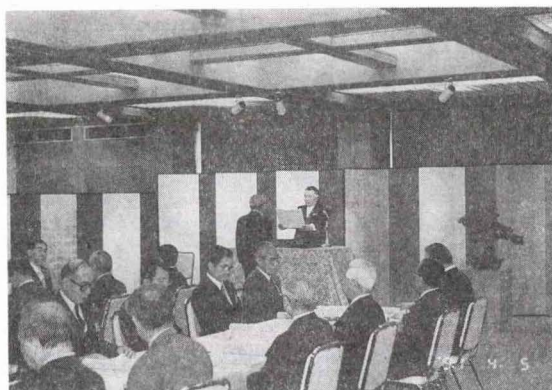
## 名誉教授称号授与式

4月5日（金）午前10時30分から、名誉教授称号授与式が、京大会館において挙行された。授与式は、部局長の臨席のもとに行われ、称号授与のあと、「総長あいさつ」があって、午前11時15分終了した。

称号を授与された方は次の41名である。

（敬称略）

（氏 名）	（推薦部局）
江 原 昭 善	（霊長類研究所）
瀧 本 敦	（農 学 部）
川 合 英 夫	（農 学 部）
山 崎 和 夫	（教 養 部）
上 田 正 昭	（教 養 部）
岸 本 兆 方	（防災研究所）
山 元 龍三郎	（理 学 部）
花 井 哲 也	（化学研究所）
上 田 顯	（工 学 部）
川 島 良 治	（農 学 部）
高 橋 英 一	（農 学 部）
真 嶋 宏	（工 学 部）
酒 井 幸 三	（教 養 部）
岩 田 志 郎	（原子炉実験所）
林 宗 明	（工 学 部）
得 丸 英 勝	（工 学 部）
野 澤 謙	（霊長類研究所）
大 島 駿 作	（胸部疾患研究所）
片 山 健 一	（化学研究所）
乾 由 明	（教 養 部）
中 久 郎	（文 学 部）
木 嶋 昭	（工 学 部）
吉 澤 透	（理 学 部）
三 枝 武 夫	（工 学 部）
樋 口 隆 昌	（木材研究所）



（氏 名）	（推薦部局）
羽 田 宏	（工 学 部）
柄 倉 辰六郎	（農 学 部）
加 藤 幹 太	（理 学 部）
東 村 武 信	（原子炉実験所）
今 井 六 雄	（ウイルス研究所）
森 毅	（教 養 部）
三 宅 弘 三	（理 学 部）
端 野 朝 康	（原子エネルギー研究所）
戸 田 宏	（理 学 部）
勝 田 吉太郎	（法 学 部）
上 野 陽 里	（原子炉実験所）
幡 野 茂 明	（教 養 部）
河 合 忠 一	（医 学 部）
高 折 修 二	（医 学 部）
山 本 誠 作	（教 養 部）
青 木 次 生	（文 学 部）



### 医療技術短期大学部 名誉教授称号授与式

4月8日(月)午前9時30分から、医療技術短期大学部名誉教授称号授与式が、本短期大学部会議室において挙行された。授与式は、称号授与のあと、「学長あいさつ」があって、午前9時40分に終了した。

称号を授与された方は、次のとおりである。

(敬称略)

松 永 正 人(衛生技術学科)

(医療技術短期大学部)

### 平成3年度医療技術短期大学部 入 学 式

4月8日(月)午前10時から、平成3年度医療技術短期大学部入学式が名誉教授はじめ来賓の臨席のもとに、本短期大学部講堂において挙行された。

入学式は、学長式辞、来賓祝辞があって、午前10時40分に終了した。

今年度の新入生は、看護学科80名、衛生技術学科40名、理学療法学科20名、作業療法学科20名及び専攻科助産学特別専攻20名の計180名である。

(医療技術短期大学部)

### 平成3年度学部入学式

4月11日(木)午前10時から、平成3年度学部入学式が名誉教授はじめ来賓の臨席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、学歌斉唱(京都大学音楽部交響楽団及び京都大学合唱団が協力)に続いて、「総長のことば」があり、午前10時50分に終了した。

今年度の新入生数は、次のとおりである。

学 部	入学者数	外国人留学生		外国学校 出身者	小 計	3 年 次 編 入 者	再入学者	小 計	合 計
		国 費	私 費						
文 学 部	242 (女 90)				242 (女 90)	10 (女 4)		10 (女 4)	252 (女 94)
教 育 学 部	75 (女 38)				75 (女 38)	7 (女 3)		7 (女 3)	82 (女 41)
法 学 部	398 (女 44)			17 (女 12)	415 (女 56)	6 (女 2)		6 (女 2)	421 (女 58)
経 済 学 部	271 (女 16)		6 (女 1)	5 (女 2)	282 (女 19)	3 (女 1)		3 (女 1)	285 (女 20)
理 学 部	326 (女 13)				326 (女 13)				326 (女 13)
医 学 部	102 (女 7)				102 (女 7)		1	1	103 (女 7)
薬 学 部	87 (女 28)				87 (女 28)				87 (女 28)
工 学 部	1,062 (女 31)	2	5 (女 1)		1,069 (女 32)	8 (女 1)		8 (女 1)	1,077 (女 33)
農 学 部	338 (女 75)				338 (女 75)		2	2	340 (女 75)
合 計	2,901 (女 342)	2 (女 0)	11 (女 2)	22 (女 14)	2,936 (女 358)	34 (女 11)	3 (女 0)	37 (女 11)	2,973 (女 369)

〈注〉：女子数は内数



## 平成3年度大学院入学式

4月11日(木)午後3時から、平成3年度大学院入学式が名誉教授はじめ来賓の臨席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は、学歌斉唱(京都大学音楽部交響楽団及び京都大学合唱団が協力)に続いて、「総長のことば」があり、午後3時40分に終了した。

今年度の大学院入学及び進学状況は、次のとおりである。

修士課程入学者数					博士(後期)課程入学者数									
研究科	入学者数	外国人留学生		合計	編入学者(入学者)	外国人留学生		再入学者	小計	進学者	外国人留学生		小計	合計
		国費	私費			国費	私費				国費	私費		
文学研究科	70 (女 29)	2 (女 1)	3 (女 2)	75 (女 32)	4 (女 1)	2 (女 1)			6 (女 2)	48 (女 15)		4 (女 1)	52 (女 16)	58 (女 18)
教育学研究科	20 (女 13)	1	2 (女 2)	23 (女 15)	1				1	15 (女 8)			15 (女 8)	16 (女 8)
法学研究科	10 (女 3)	3	3	16 (女 3)	1				1	14 (女 4)	2	3	19 (女 4)	20 (女 4)
経済学研究科	12 (女 2)	1 (女 1)	5 (女 3)	18 (女 6)	2 (女 1)	1	1		4 (女 1)	9		3 (女 1)	12 (女 1)	16 (女 2)
理学研究科	184 (女 7)		2	186 (女 7)	7 (女 2)	4	2 (女 1)		13 (女 3)	121 (女 12)	5 (女 4)		126 (女 16)	139 (女 19)
医学研究科					117 (女 14)	1	9 (女 4)		127 (女 18)					127 (女 18)
薬学研究科	43 (女 13)		3 (女 3)	46 (女 16)	2	1			3	16 (女 2)			16 (女 2)	19 (女 2)
工学研究科	608 (女 11)	3	15 (女 2)	626 (女 13)	5	9 (女 1)	4 (女 1)		18 (女 2)	49 (女 1)	2	5	56 (女 1)	74 (女 3)
農学研究科	155 (女 22)	5	4 (女 1)	164 (女 23)	3	4 (女 1)	5		12 (女 1)	38 (女 3)	9 (女 1)	1 (女 1)	48 (女 5)	60 (女 6)
合 計	1,102 (女 100)	15 (女 2)	37 (女 13)	1,154 (女 115)	142 (女 18)	22 (女 3)	21 (女 6)	0 (女 0)	185 (女 27)	310 (女 45)	18 (女 5)	16 (女 3)	344 (女 53)	529 (女 80)

〈注〉：女子数は内数



平成3年度学部入学式

## 平成3年度 京都大学春秋講義（春季講座）の開講

財団法人京都大学後援会の協力により、下記のとおり「平成3年度京都大学春秋講義（春季講座）」を開講します。

ついては、本学教職員並びに学生に対し、各講義とも特別枠（無料）30名を設けていますので、受講希望者は所属部局の事務担当掛へ申し込んでください。

## 記

## ☆月曜講義（5回シリーズ）メインテーマ『今、近代を問い直す』

開 講 日	講 師	テ ー マ
5 月 20 日	経済学部教授 木 崎 喜代治	近代的自由の理念—モンテスキュウをめぐる—
5 月 27 日	文学部教授 松 尾 尊 允	大正デモクラシーと戦後民主主義
6 月 3 日	名 誉 教 授 山 本 誠 作	近代主義の克服—ホワイトヘッドと西田の試み—
6 月 10 日	アフリカ地域研究センター教授 田 中 二 郎	アフリカの伝統と近代化
6 月 17 日	理学部教授 日 高 敏 隆	近代の科学技術とは何であったのか？

定 員 120名

受 講 料 6,000円

会 場 京都大学時計台 1 階法経第二教室

時 間 午後6時30分～8時30分

申込締切日 5月15日（水）

## ☆水曜講義

開 講 日	講 師	テ ー マ
5 月 22 日	工学部教授 長 尾 真	情報の生態学
5 月 29 日	教養部教授 米 山 俊 直	生活史と文化人類学
6 月 5 日	防災研究所教授 土 岐 憲 三	世界の自然災害と国際防災の十年
6 月 12 日	超高層電波研究センター教授 加 藤 進	電波で探る大気の謎
6 月 19 日	文学部教授 竺 沙 雅 章	敦煌文書の世界

定 員 120名

受 講 料 1 講義分1,200円, 5 講義分6,000円

会 場 京都大学時計台 1 階法経第二教室

時 間 午後6時30分～8時30分

申込締切日 5月15日（水）

## ○ 申込方法

- ① 月曜講義、水曜講義のそれぞれに別の往復はがきで下記の申込先へお申し込みください。申込はがきには、住所・氏名・電話番号をお書きください。なお、水曜講義の場合は受講希望日を必ずお書きください。（返信はがきにも住所・氏名をお書きください。）
- ② 申込み者が定員を超えた場合は、抽選により受講者を決定させていただきます。
- ③ 受講料は、受講決定通知を受領後、郵便局の所定の振込口座へ振り込んでください。一度お支払いいただいた受講料は返金いたしません。

## ○ 受講資格は問いません。

## ○ 申込先 〒606—01 京都市左京区吉田本町 京都大学 春秋講義係 電話075—753—2041

## 学術出版会が出版を開始

京都大学における学術研究を支援し、また促進すべく設立された京都大学学術出版会が平成2年12月に設立第一作を刊行した。12月7日、西島安則会長（本学総長）、藤澤令夫理事長（本学名誉教授）が記者会見し、第一作を紹介するとともに、改めて出版会の University Press としての存在と今後の展開・抱負を語った。

処女刊行は、平田守衛著『黒田麴廬と「漂荒紀事」』。麴廬は膳所藩校頭取を務め、幕命により開成所（東京帝国大学の前身）の教授手伝に任ぜられた。この間、英・仏・独語に習熟し、明治になって職を失うとともに、これまでの蓄積をもとに、天文・暦学の専門書、政治・歴史・地理などの啓蒙書をやつぎばやに訳述・著述（訳稿120余种、刊行20数種）したが、恐らく、その博識と西洋文明への造詣は当代随一であった。その中には、福沢諭吉の『西洋事情』に詳解・註釈を附し、重要項目を解説した付録とともに刊行した『増補和解西洋事情』があり、福沢をして「天下に畏るべき男は膳所の黒田だ」と言わしめた。また、東本願寺の依頼によるインド最古のパラモン教聖典『リグ・ヴェーダ』の英訳からの翻訳（梵語との対訳付）もある、忘れられた大学者である。

本書は、こうした麴廬の全業績を紹介するとともに、初期麴廬の異色の訳業、翻訳制限下での本邦最初の西洋文学の翻訳であるダニエル・デフォー

『ロビンソン・クルーソー』の蘭訳本からの重訳『漂荒紀事』の翻刻・写本・朱白墨入「草稿」（京都大学附属図書館蔵）に厳密な考証を加え、二色刷にして収録し、また、松田 清本学教養部助教授による蘭訳原本及び初期麴廬と当時の我が国の蘭学修業についての考察を収めている。二冊函入計700頁の美装本であり、新聞紙上等で好評を得た。

学術出版会はこの5月から、1～2ヶ月に一冊刊行していく予定である。常任理事会・編集委員会も2月から定例化され、体制も整ってきた。広く原稿を募りたい。5月刊行予定は、中川久定編 *La Révolution française et la littérature* 及び川合英夫編『流れと生物と—水産海洋学特論』である。

## 部局長の交替等

### 原子炉実験所長

西原英晃原子炉実験所教授（原子炉熱特性管理研究部門担当）が4月2日原子炉実験所長に再任された。任期は平成5年4月1日までである。

### 生態学研究センター長

生態学研究センターの新設に伴い、同センター長に川那辺 浩哉理学部教授（動物生態学講座担当）が4月12日任命された。任期は平成5年4月11日までである。



## &lt; 紹 介 &gt;

## 環境保全センター

環境保全センターは、昭和52年に学内共同利用施設として、「京都大学における教育研究等の活動に伴い発生する廃棄物の適正処理等により環境保全をはかるとともに、廃棄物処理等に関する研究を行い、及び本学における環境保全に関する基礎教育に協力する」という目的をもって設立された。

本学では、昭和47年4月、「大学の研究・教育に伴って排出される実験廃棄物の処理は、研究・教育の一環をなすものであって、あくまでも大学、特に排出者自身の責任において可能な限り果たされなければならない」という見地から、処理装置の設置計画が開始された。昭和49年12月には、学内共同利用の施設として、工学部に京都大学有機廃液処理装置 (KYS) が設置され、上記の見地をさらに深めた「学内に設置した処理装置を排出者の利用に供し、排出者が自らその処理にあたる」という全国の大学でも数少ない考え方を基本原則として、その処理装置の管理・運用が行われてきた。昭和52年4月、環境保全センターが設立されると同時に、KYS の管理等は当センターに付託された。昭和55年3月には、当センターの庁舎及び京都大学無機廃液処理装置 (KMS) が完成し、組織も現在の形にととのった。

当センターの組織は、センター長（兼任）1名、教官3名、事務官2名、技官2名及び非常勤職員2名の計10名からなり、研究部と事務部を構成している。小人数にもかかわらず、研究部では①授業や実験カリキュラム等に組み込まれた環境保全に関する基礎教育の実施、②廃液処理装置の指導員講習会の開催、③実験排水系整備計画等の企画、④環境保全に関連した廃棄物及び廃液の処理などに関する研究・教育、⑤大学内における排水・廃棄物の管理等の指導助言などを主たる活動とし、事務部では①廃液処理装置の運転管理、②環境法規上の手続き、③本センターの事務一般の業務などを行っている。

特に、研究部の④における研究では、フェライト化処理法による重金属除去に関する研究、廃棄物減量化をめざした一般廃棄物組成の調査、乾電池やプラスチック容器のような適正処理困難廃棄

物の事前評価手法に関する研究、下水汚泥や一般廃棄物を対象とした処理システムのモデル化、エネルギー収支解析及び最適設計等に関する研究、大学における環境科学教育のあり方並びに大学の廃棄物処理システムを利用した環境教育に関する研究などが活発に行われ、これまで多くの業績をあげている。

環境保全センターに設置された廃液処理装置の管理・運用の特徴は、前にも述べたように、全国の大学の中でも例の少ない基本原則にしたがって実践されていることである。分かり易く言えば、処理装置の利用者（排出者）は決められた日時に、各自の研究室から環境保全センターに廃液を運び込み、処理装置に関する一定の知識を有すると当該部局より任命された指導員の指導のもとに、自ら装置を運転し廃液の処理をするわけである。この廃液処理作業時に、環境保全センターの職員は立ち会いが、廃液処理のための作業員としてではなく、主として廃液処理装置の維持・管理及び廃液処理が安全かつ円滑に進むように補助的作業をするためである。したがって、指導員が不在であったり、搬入された廃液がその処理装置で処理不可となった場合には、廃液を再び排出者の研究室に返却する事態もあり得る。これまで、このように処理不可となった場合の多くは、分別貯留の誤りや装置の処理原理を充分熟知していなかったことなど、僅かな不注意によることがほとんどであった。

このような廃液処理に対する排出者責任という考え方は、時間的、人的節約などの面から考えると、非常に効率が悪いのは事実である。しかしながら、教職員、学生の環境保全に対する意識の向上や全学的な規模での環境教育の実践などの教育的な面、処理廃液の性状について一番よく知っている排出者が自ら処理をすることによる種々の危険（廃液の混合等による火災や中毒、その他の災害）の回避や円滑な処理などの面から考えると、この考え方にも多くの利点があるように思える。

全国の大学の中で京都大学のような運営方法をとっているところは、それぞれの大学の事情の違いなどからまだその数は少ない。今後、このような運営方法をとる大学が少しでも多く現われることを期待している。（環境保全センター）



## 計 報

## 井上 治郎 防災研究所助手

本学防災研究所助手 井上治郎 先生は、中国雲南省梅里雪山において、京大学士山岳会日中合同学術登山隊の一行16名とともに本年1月3日午後10時15分から4日午前9時までの間に遭難、逝去された。享年45。

先生は、昭和43年3月京都大学理学部地球物理学科を卒業、同大学院理学研究科修士課程修了後、昭和49年6月博士課程を中退し防災研究所助手に就任された。

先生の専門分野は、応用気候学とくに極地気象学で、ヒマラヤ、南極大陸、南米パタゴニア地方などにおける氷原上の風・熱収支、氷河の質量収支、氷河谷の異常強風、中国の乾燥地の気候、雪氷災害などの観測研究で顕著な業績をあげられた。特筆すべき研究としては、南極氷原上での運動量の乱流輸送の直接測定から風に対する表面摩擦係数を決定したことがあげられる。その結果、定常的な風に対して摩擦係数が極めて小さくなり、また風向により摩擦係数が変化するという注目すべき成果を得たが、これは南極における強風発現の機構を解明するうえでの重要な知見となっている。著書に『南極の科学』（共著）、『雪氷辞典』（共著）などがある。

ここに慎んで哀悼の意を表し、ご冥福を祈ります。（防災研究所）

本学退官後は、大阪産業大学教養部の教授に就任され、同大学の発展に貢献された。

先生のご専門は、有機化学で、多くの優れた業績を残されている。主な著書には、『有機化学』『日本の化学百年史』等がある。

先生は、昭和58年度京都大学中国政府派遣大学院留学生のための予備教育教官団（第二次）の団長を務められた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。（教養部）

## 岸本 正雄 名誉教授

本学名誉教授 岸本正雄 先生は、3月31日逝去された。享年79。

先生は、昭和10年京都帝国大学医学部を卒業後、京都帝国大学副手、助手、助教授、長崎大学医学部教授を経て、昭和43年京都大学医学部教授に就任、同50年停年により退官され、本学名誉教授の称号を授与された。

この間、日本眼科学会評議員・理事を歴任され、本学退官後は大阪北通信病院長に就任し、研究・教育・医療の発展に尽力された。

先生の専門は眼科学、特に緑内障に関する研究並びに網膜剝離の成因及びその手術的療法に関するものである。

これら一連の研究活動、学術上の貢献に対し、昭和57年勲三等旭日中綬章を授与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。（医学部）

## 木下 圭三 名誉教授

本学名誉教授 木下圭三 先生は、3月29日逝去された。享年70。

先生は、昭和17年京都帝国大学理学部を卒業後、京都帝国大学副手、京都府立西京大学講師、京都大学（分校）講師、助教授を経て、昭和39年本学教養部教授に就任、同59年停年により退官され、本学名誉教授の称号を授与された。この間、昭和50年4月から同51年3月まで京都大学評議員、同51年4月から同52年3月まで教養部長を歴任され、大学の管理運営に貢献された。





# 洛書

最近、宇宙論学者S. ホーキング博士の本が出版社もわけが判らぬほどのベストセラーだそうである。1985年5月、京大に来ていた彼は理学部の共同講義室を一杯にした学生を前にユーモアたっぷりの講演をしたことがある。通訳は要ったがまだ発声できた頃であった。

昨年夏に東京で彼の一般講演会があった。講演の題は「ブラックホールとベビーユニバース」。これはわれわれの空間を拡大に拡大をして見れば穴ぼこだらけの多重連結空間であるという趣旨の内容である。ところが講演の後彼に呈された質問は「この宇宙に他の知性はあるか?」という趣旨のものであった。もちろん質問は講演と無関係でもこの際この人に聞いてみたいというものでもよい。ましてこの質問なら比叡山のお坊さんにも、都知事候補者達にもぶつけてみたいようなものである。ましてや彼のような世界的人物なら当然である。しかし、この問題についての具体的な科学研究の現状を聞きたいというならそれは全くの見当違いなわけである。同じ宇宙の研究といってもその対象は質の違ういくつもの階層から成り立って

いる。彼の研究者としてのテーマと質問とはピンとキリのある関係にあるともいえる。似たような錯覚の経験は私にもある。ある講演会で宇宙のビッグバンの話をした後で、待ちかまえていたように出た質問が「夏に流星はどちらの方角に多いか?」だった。流星は地球の大気に太陽系内の塵が突っ込むときの発光現象である。しかし、想像するにこの人にとっては流星も膨張宇宙も同じ宇宙の話題であってその間の「距離」は流星とわれわれ日常生活との「距離」と較べれば無視できるくらいに小さいものだったのだ

と思う。腹が立つどころか大事なことを教わった気がした。宇宙のように遠いもの

## 遠いものとの距離

佐藤文隆 のとの距離を推し量るのは難しいものである。最近わ

れわれがやっているような百億光年の極大宇宙をいつのまにか $10^{-33}$ センチなどという極微の話に豹変さす理論と、光害を気にしながら自宅で望遠鏡を覗く人々の思いのどちらが宇宙に近いのかは単純には答えられないものだろう。遠いものとの距離には多くの錯覚が横行するが、同時に誰もそれをとがめだてはしない。それが「遠い」ということの尺度なのかもしれない。いったい、われわれは何処まで遠くにいてよいのか? 考えると、みょうに神妙な気分になる。

(さとう ふみたか 理学部教授)

日 誌 (1991年3月1日～3月31日)

3月1日 環境保全委員会

4日～5日

医療技術短期大学部入学選抜試験

5日 評議会

〃 保健衛生委員会

9日 ポーランド人民共和国 Copernicus 大学 Slawomir Kalembka 学長来学、総長及び関係教員と懇談

13日～14日

入学選抜学力試験(後期日程試験)

16日 タイ王国 Chulalongkorn 大学 Charas Suwanwela 学長来学、総長と懇談

17日 中国登山協会 史 占春 主席ほか7名来学、総長と懇談及び梅里雪山学術登山隊合同追悼式出席

18日 スーダン共和国 Kharatoum 大学 アジア・

アフリカ研究所 M.O. Beshir 教授来学、総長及び関係教員と懇談

〃 医療技術短期大学部卒業式・同専攻科修了式

19日 評議会

〃 大学院審議会

22日 英国 Royal Society 会員 Kent 大学 R.L. Wain 教授夫妻来学、総長及び関係教員と懇談

23日 修士学位授与式

〃 博士学位授与式

25日 卒業式

27日 附属図書館商議

29日 国連大学 Roland Fuchs 副学長ほか3名来学、総長と懇談

30日 連合王国 Cambridge 大学 D.G.T. Williams 学長夫妻来学、総長と懇談